

# 田んぼアート 米づくり体験事業

## 自治体情報

人口 86,823 人

標準財政規模 15,911,836 千円

担当課 埼玉県 行田市 環境経済部農政課農政担当

電話番号 048-556-1111 内線 (387)

ホームページ <http://www.city.gyoda.lg.jp/>

事業期間 平成 20 年度から

参考とした施策 秩父郡横瀬町「棚田再生事業」

関係施策分類

## 施策の概要

### 1 取り組みに至る背景

古代蓮の里公園にそびえ建つ高さ 50m のタワーから望む水田を舞台に、「田んぼアート事業」の取り組みを、行政と関係機関・団体が協働で実施するもの。みどり豊かな水田に色彩が異なる複数の稲を植え付けて、文字や図柄を表現し、「行田の美味しいお米」や「観光地・行田」を PR すると共に、農業体験を通じて都市住民や地元住民・子供たちとの交流を図り、農業・環境への理解を促進すると同時に、行田市に「新たな観光名所」が誕生する。

## 今年も田んぼアートを見よう!!

田んぼアートの見ごろ  
9月上旬~10月上旬



完成予想図



田植え作業 6月7日(日)  
参加者115名

### 2 事業内容 (目的・目標・方策)

#### (1) 平成 20 年度

「田んぼアート事業」初年度として、「田んぼアート米づくり体験事業推進協議会」を設立した。先進地の情報収集を行うとともに秩父郡横瀬町の棚田再生事業（田んぼアート）に協議会委員と共に参加し、本市の「田んぼアート事業」の取り組みの参考とした。平成 20 年度は、20a 圃場に試行的に 4 種類の稲を植付け「蓮の花」を咲かせた。

#### (2) 平成 21 年度

平成 21 年 1 月に図案を一般公募により募集した結果、62 名・83 作品の応募があり、その内、一作品を金賞として図柄を決定した。

6 月 7 日 (日) には、水稻・古代米の種類を 6 種類使用し、作付面積も 3 倍に拡大して、市内外より 115 名の参加者の下、田植え作業を実施した。

また、10 月中旬には、稲刈り体験を実施し、都市住民と地元住民・子供たちとの交流を図る。



### 3 施策の開始前に想定した事業効果

「米づくり」という農業体験を通して、毎日食べる「お米」を身近に感じ「田んぼを大切に思う心」が育まれるとともに、「食の安全」や「食糧自給率の低下」、「都市の温暖化」といった直面する問題について、考えるきっかけを与えてくれる効果も期待できる。

### 4 導入にあたり工夫・苦労した点、課題、対処法など

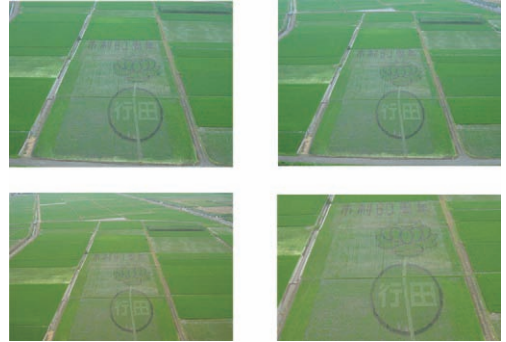
ゼロからの出発であり、非常に不安があるなかで事業が始まった。

先進地の情報収集・古代米種子の確保や実際に圃場にアートする手法など、取組んでいる団体により異なるものである。

また、通常の水稲とは違い元肥の施肥料を抑えながら取組まないと倒伏してしまう古代米の種類もあることが分かった。

今後には、倒伏を避けるために追肥対応する方向で対処する。

また、規模を拡大することにより「田んぼアート」に必要な座標点の測量を測量業者に委託し、継続事業として取組んで行く。



### 5 現在の成果・実績、今後の展開など

昨年は「田んぼアート」の実施により、古代蓮の里公園展望タワーの利用者数を、特に8月から10月の期間、大幅に増加することができた。規模を拡大し実施する今年は、さらなる増加が見込まれる。また、多くのマスメディアに取り上げられることにより、観光地・行田のさらなる知名度アップにつながることを期待できる。

今後、恵まれた立地条件を生かし、関東一の「田んぼアート」を目指す。

## 予算関連データ 行田市

総額 ①～⑤の計		財源内訳(財源区分:①～⑤)				
		①国費	②県費	③起債	④その他	⑤一般財源
1,650千円		0千円	700千円	0千円	240千円	710千円
①～④の名称・所管等	名称		地域づくり提案事業補助金		①農業体験参加費 ②米販売代金等	
	所管		埼玉県企画財政部 地域政策課			
	金額		700千円		① 140千円 ② 100千円	
	補助率		1/2			